

## 第二学年国語科学習指導案

指導者（国語領域専攻） ○○○○

（指導担当教員） ○○○○

一. 日時 平成二十年九月四日（月曜） 第四校時（11：45～12：35）

二. 学年・組 第二年三組 計三十九名

三. 場所 第二学年三組教室

四. 単元名 人間のきずな『盆土産』『字のないはがき』

五. 単元の目標

（関心・意欲・態度）

・ 家族の絆とは何かということに興味をもって作品を読み、意見をもち、発表する。

（話すこと・聞くこと）

・ 自分の知識や経験を結びつけながら、意欲的に発表・意見交換ができる。

（書くこと）

・ 家族のあり方や絆について考えを深め、自分の意見を書くことができる。

（読むこと）

・ 登場人物の発言や時代背景から心情を読み取ることができる。

（言語事項）

・ 「盆土産」、「疎開」など日常生活で使わない語彙に対して理解を深める。

六. 単元について

①教材観

本単元教材『字のないはがき』と『盆土産』は、どちらも父親を中心とした「家族」をテーマとしている。『盆土産』は小説、『字のないはがき』はエッセイであり、時代背景をはじめ、家族の形や描かれ方は違うが、家族を思う気持ちは共通している。また、その家族を思う気持ちが言葉だけではなく、行動に現れている点も共通している。

一学期には、風景描写から心情を読み取る学習を行ったが、その発展型として、行動から登場人物の心情を読み取るのに最適な単元である。また、その読み取った心情を元に、「家族」について意見交換を行いやすい教材でもある。

『盆土産』は、少年のえびフライに対する思いや父との別れの場面の心情描写、味覚を言葉で表現する方法など観点は様々であるが、『字のないはがき』とは「家族」というテーマに共通点がある。主に、家族、特に少年と父親の場面に、家族のつながりや絆が深く感じられる特徴が挙げられる。また、父からの盆土産であるえびフライも重要なキーポイントであり、言葉ではなく、えびフライという盆土産を介して行われる親子のコミュニケーションが大切な場面といえる。

作品上では時間・場所を特定できる記述は見られないが、場所は作者・三浦哲郎の出身地である青森県八戸市がモデルであろうと考えられる。作品上でも「東京の上野駅から近くの町の駅までは、夜行でおよそ八時間かかる。」とあり、方言「うめもんせ。」「えびフライ」など東北方言があることから、青森が舞台であると考えてよいであろう。時代を読み取るものとして速達やビールを川に冷やすなど記述から一九六〇年代後半から一九七〇年代前半であろうと思われる。少なくとも、わかりやすいのは、電化製品などが普及していない田舎であるということである。

また、この作品では「えびフライ」とつぶやいてみた。」や「お前と姉は二匹ずつ食え。」などの何気ない会話から、前者では父の土産に対する期待感、後者では子どもを思いやる父親の愛情が伺えるなど、といった何気ない記述がたくさん盛り込まれていることが特徴でもある。

また「盆土産」というタイトルが、離れて暮らす父親の帰省と土産を待ちわびる子どもたちを表すと同時に、正月と比べ、日数が限られた墓参りによって亡くなった母や祖父と向き合ったりといった、一種のせつなさを示しているのも大きな特徴といえる。

## ②生徒観

男女とも活発で、積極的に活動する様子が見受けられる。発表や話し合いの場でも臆することなく、自分の意見を言う生徒が多い。しかし、一方で自らの意見ではあるが、なかなか発表しないという生徒もいる。

多くの生徒は、「家族」の意識はもっているものの、「絆」があるというところまでは意識はしていないようである。また、「家族愛」に関する小説やドラマなどは好きな生徒は多いが、自分の「家族」にまで目を向けている生徒は少ないであろう。したがって、客観的、言い方を変えれば他人事として「家族の絆」についての意見をもつことはできると予想されるが、自分に直接あてはめて考えることはなかなか困難だと考えられる。もちろん、それを文章にすることもなかなかできないであろう。また、思春期ということもあり、意見はもつものの、恥ずかしさのあまり、発表することや書くことができない生徒も多いであろう。小説などの作品から時代背景や心情を読み取るのは、現代に近ければ近いほど生徒は得意である。少しはなれた年代や、自分の行ったことのない場所などは苦手な様子である。語彙力については、いままでどれだけ接してきたかによるため、クラスの中では生徒間で大きな違いが見られる。

## ③指導観

第一時『盆土産』では、現代では理解しにくい状況が描かれているので、時代背景をしっかりと押さえたうえで、作品に取り組ませたい。この作品では、少年と父親の行動などから読み取れる心情を理解させたい。そのために行動の動作化や、視覚教材を利用して、生徒の理解を深めたい。

第二時『字のないはがき』に関しては、東京大空襲や学童疎開といった事柄があるため、戦争をテーマとしてとらえてしまいがちになることが考えられるが、あくまでも「家族」に注目させるよう留意する。この作品では前半部分と後半部分での父の姿の変化によって、父が筆者をはじめとする子どもたちにもっていた愛情を感じ取らせたい。そのために父親のといった行動を生徒に追体験をさせるなどをして、父親の心情に迫らせたい。

第三時では、シンポジウムを開く。シンポジウムを開く目的は、生徒が作品の読解のみに留まらず、そこで得た家族についての考えをクラス全体で深めるためである。そこでの意見交換を通して、生徒の意見に広がりをもたせたい。

本時で扱う第一場面は「えびフライ」とつぶやいてみた。」という印象的な一文から始まり、「えびフライ」という言葉が連続して三回も並び、少年にとって「えびフライ」が「まだ見たことも、食ったこともない」ものであり、特別であったころを理解させることがまずは大切である。

現在、えびフライはポピュラーな食べ物であり、その形状は生徒はすぐに思い浮かべることができるが、少年にはそれができないことに気づかせ、そのことから、現代の感覚とは違うことを、しっかりと認識させる必要がある。そのために「えびフライ」のイラストを描かせることで、少

年の気持ちに迫らせた。また、同時に、どんなものかは分からないが、「父親がわざわざ東京から盆土産に持って帰ってくるくらいだから、とびきりうまいものには違いない」と父親を信じて期待を寄せる少年の父親への信頼というものも理解させたい。

また、「えびフライ」とつぶやきながら行っている雑魚釣りも父親のために行っていることであり、父親の好物を食卓に並べようという父親に対する気持ちや、速達にひやりとしている家族の様子から離れて暮らす父親に対する愛情を読み取ることができることも押さえた。

父親との再会の場面では大きな行動が表れず、涙を流したり、抱き合ったりすることだけが、家族愛の表れでないということ、第二次で行う「字のないはがき」との関連を考えながら、押さえておきたい。また、この小説は少年の目線で語られているため、少年の心情は多く書かれているが、父親の心情が全く描かれていないため、少年の気持ちだけでなく、この父親の気持ちも考えさせることより、家族の愛情を読み取らせたい。こうした点に関して、第一場面では、土産の『冷凍食品 えびフライ』を帰りの道中、九時間もの間冷やし続けた父親、という部分にその愛情を読み取らせることが可能と考える。

さらに、この地域全体の家族観のとらえ方として少年と喜作の会話に注目させたい。喜作が着ている「真新しい、派手な色の横縞のTシャツ」と「何連発かの細長い花火の筒」も父親から盆土産であり、この地域が父親が出稼ぎに出る家庭が多いこと、父の帰省＝土産という公式が少年たちの暗黙の了解となっており、さらにそれを披露することが彼らの楽しみであること、しかし今回の少年の土産はえびフライであり、容易に披露することは難しいこと、などの読み取りから、喜作に自慢してやりたい気持ちと食わせたくないという気持ちの揺れを共感させることで作品の理解を深めさせたい。

## 七. 全体計画（全八時間）

第一次 『盆土産』 ……四時間（本時 二／四）

・一時間目 ・音読 ・初発の感想 ・時代背景と登場人物の確認

・二時間目 第一場面における少年の気持ちの読み取り

・三時間目 第二場面の墓参りの場面での家族の気持ちについての読み取り

・四時間目 父との別れの場面の読み取り、父親像のまとめ

第二次 『字のないはがき』 ……三時間

・五時間目 ・音読 ・初発の感想 ・前半の読解（普段の父と手紙の中の父との比較）

・六時間目 ・後半の時代背景の確認 ・後半の読解（妹のはがき）

・七時間目 後半の読解（父の行動を中心に）

第三次 シンポジウム ……一時間

・八時間目 作品を通して感じた家族のきずなについての意見を交流するシンポジウムを行う

## 八. 本時の学習

### ① 本時の目標

・少年と父親とのことばを介さないコミュニケーションを通して、心情を読み取る。（読むこと）

・少年の心情を文章中から積極的に読み取る。（意欲・関心・態度）

・「盆土産」のように普段使用しない言葉や、「うめもんせ」などの方言をはじめとした言葉を理解する。（言語事項）

②本時の展開

○主なる指示・発問

■評価

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・資料 等
導入 5分	1. 前時の復習 ・あらすじをワークシートを確認する(抜けている部分を答える)。	○ワークシートをしてきているかを確認する(机間指導) ○自己評価表を配布する。	ワークシートの予備 自己評価表
展開 40分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">今日は少年と父親のコミュニケーションについて考えていきます。</div> 2. 本時の目標を知る。 3. 少年の心情について考える。 ・少年の心情を考え、発表する。 「えびフライってどんなもんだろう」 「お父さん、早くかえってこないかな」 4. 時代背景を確認する。 ・えびフライの絵を描く。 ・少年にはえびフライのイメージがなかったことを確認する。 5. 行動から心情を読み取る。 ・少年の心情を考え、発表する。 「魚釣りです」 「ビールを冷やします」 ・父親の心情を考え、発表する 「えびフライを苦勞して帰って帰る」	○少年と父親のコミュニケーションと心情について考えさせる。 ○「冒頭で『えびフライ』とつぶやいた時の少年の心情はどうでしたか」 ・心情を考えさせることで、登場人物の内面に迫らせる。 ○少年のえびフライに対するイメージを確認させる。 ○「えびフライの絵を描いてみてください」 ・えびフライというものがまだ浸透していなかったことに気づかせる ○少年の行動を確認させる。 ○「帰ってくる父親のためには少年は何をしますか」 ■少年の心情について発表できたか。 ○父親の行動を確認させる。 ○「父親はえびフライをもって帰るときに、どんなことをしましたか」 ・少年と父親の行動がお互いの為を思っているのだということを気づかせる。 ■少年と父親の心情を読みとることができたか。 ○少年と喜作の会話を確認する。	えびフライのイラスト 「少年」「父親」とかいたカード
6. 登場人物の会話から土産がどんな意味を持っているかを知る。			

<p>・少年と喜助の会話を再現する。 ・おかしい部分を指摘する。 『父っちゃん帰ったってな』の後にすぐ『えびフライ』というのはおかしいです」</p>		<p>○「少年と喜作はどのような会話をしますか」 ・会話が普通ならばかみ合わないことに気づかせ、盆土産というものが少年にとって特別なものであることに気づかせる。 ■言葉に関して、辞書を引くなどして理解することができたか。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>本時でわかったことは何ですか？自己評価表をかきましよう。</p> <p>7. 本時を振り返る。 8. 次の目標を知る。</p>	<p>○本時のまとめを行う。 ○「自己評価表を書いてください。」 ○「今回は墓参りシーンを呼んでいきます。」</p>	<p>自己評価表</p>

③評価の観点と評価

- ・少年と父親の言葉を介さないコミュニケーションから、二人の心情を読み取ることができたか。(ノートへの書き込み、自己評価表、定期テストなどによる判断)
- ・少年の心情について文章の記述をもとに発表することができたか。(観察によって判断)
- ・言葉に関して、辞書を引くなどして理解することができたか。(観察、定期テスト等で判断)

④板書計画

盆土産

えびフライ 見たことも食べたこともない

イラスト

・うまいものにちがいない  
←  
父のお土産への信頼

少年

- ・雑魚釣り
- ・ビールを冷やす
- ・えびフライを買う
- ・一晩中冷やし続ける

お互いのことを思っている

喜作↓Tシャツ・花火

子どもたち↓自慢しあう

父からの盆土産